

2025 年度 委員会事業報告書

担当副理事長 加藤大晴

新たな絆が生み出す煌めく海部津島創造委員会 委員長 丹羽貴大

1. 委員会開催日 (12 回)

01/14 02/15 03/17 04/15 05/15 06/29 07/17 08/09 09/13 10/14
11/10 12/09

2. 事業報告

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| (1) 2 月例会の担当 | 02 月 20 日 |
| (2) JC デー (8 月例会) の担当 | 08 月 16 日～08 月 17 日 |
| (3) 10 月例会の担当 | 10 月 16 日 |
| (4) JCI 日本 京都会議の担当 | 01 月 25 日 |
| (5) JCI ASPAC の担当【ウランバートル】 | 06 月 12 日～06 月 15 日 |
| (6) 東海地区 東海コンファレンス 2025 の担当【愛知】 | 08 月 23 日 |
| (7) JCI 世界会議の担当【チュニス】 | 11 月 02 日～11 月 09 日 |
| (8) 防災に関する担当 | 通年 |
| (9) 新入会員募集の担当 | 通年 |
| (10) 新入会員予定者のオリエンテーションの担当 | 通年 |
| (11) 新入会員の拡大 | 通年 |
| (12) 新入会員の育成 | 通年 |

3. 委員会メンバー

丹羽貴大 村上瑛一 石川裕之 伊藤翔太 久保馨 山口陽子 富山涼介 石原孝祐
アヒンバレ・オゲリャヒ・ケリー

4. 反省点及び申し送り事項

当委員会では、当 LOM の会員拡大を効率的に実施していくための全員拡大の仕組み化の実施及び、LOM の拡大活動、さらには、新型コロナウイルス感染症の影響で低下した子供たちの自己肯定感の向上を図ること、海部津島地域の活気と元気を創造し、煌めく海部津島を創造することを目標として活動してきました。まずは、全員拡大のスキームを形作り、子供たちの自己肯定感を向上させる運動を行っていく過程で、協働者を巻き込み我々の活動に理解をしていただくことで、最終的に当 LOM へ入会していただくというプロセスを基本方針として設定いたしました。

まずは、2 月例会において、青年会議所の魅力の理解を深めることで、まずは拡大意識の動機付けを行い、役割と手順を明確化することで全員が拡大に携われるようにすることを目的に実施をしました。各セッションにおいてクオリティが達していないことや内容の過不足など、準備不足が目立つ例会となりました。しかし、全員拡大スキームはメンバー全員に共有ができ、例会中にスキームを用いた拡大活動を実際にスタートすることができました。具体的な手法としては、国税庁の法人番号公表サイトと AI を応用した拡大候補者リストの作成を行いました。歴の浅いメンバーでも効率よく拡大候補者を探す手法を委員会として模索する

工程はまさに全員拡大であり、LOM としての拡大意識の機運は高めることができました。しかし、拡大活動とは継続性が重要で、短距離走ではなく、長距離走に近いものと思います。2 月例会で全員拡大の拡大活動をスタートさせることはできましたが、その活動ペースを維持することが年間を通して全員拡大を行っていく上ではキーポイントであったと思います。継続性については当初から考慮していたものの、まずは拡大スキームを形にすることや効率化を図ることを優先したため、手法が先行してしまい、継続性の検討が十分に行えなかったことが反省点であると考えております。初期の段階にて、委員会メンバー全員で継続性についての意識を高めておければ、手法先行にならずに、コツコツ続けていくことができたのではないかと思います。新入会員をプランナーという全員拡大の役職に定義しましたが、プランナーは拡大候補者リストの構築が主となり、机上での作業のみではそもそも継続性を保つのは難しかったと思います。中堅ベテランメンバーのコミュニケーター・クローザーの役職に帯同することで、実働の機会を提供する予定はしておりましたが、そちらが後手に回ってしまったことが継続性を作り出すうえでの一番の反省点であると考えます。実働すればおのずと人とのコミュニケーションが生まれ、その過程が実を結ばば候補者を入会させることができます。その体験こそが拡大活動の醍醐味であり、継続性を作り出す鍵であると考えます。全員拡大の仕組化と足並みを揃えて、多少の強制力を持ったとしても、プランナーの実働にも注力が必要であったと思います。

8 月例会では、子供たちの自己肯定感を向上させることを目的として実施しました。事業では想定を多く上回る来場者数を記録し、出店設営に参加した子どもたちの自己肯定感の向上に効果を発揮することができました。ひとつの事業としては、成功であったと判断はできると思いますが、事業以外の部分でのアクションを一切行うことができませんでした。本年度でいうと、子供たちの自己肯定感を向上させ、将来的に地域のリーダーを担う人材になっていただくことで、海部津島に活気と元気を呼び起こし、煌めく海部津島を創造していく、ということが目標でした。その実現には一過性の効果だけではなく継続的な効果が必要です。つまり、事業の実施にて得られた効果をもって各自治体に提言を行うことや、諸団体と連携してこの活動の継続性を模索したりすることがアクションできる内容として挙げることができます。チラシ配布では、7 市町村の全小学生に配布をしましたが、スケジュール感を事前に把握し後援をしっかりとすることで各自治体と少しでも連携を深めていくことが必要だと思いました。また、当委員会の本年度の主軸である拡大活動の部分で会員候補者に成り得る、協働者集めという部分にほとんどの時間とリソースを充てることができなかったことは大きな反省点だと考えます。こちらも同様に全体のスケジュール感を初期段階からしっかりと見極めて事業構築していく必要があります。さらに限られたリソースの中で実施していくには、事業構築に深く携わっていない LOM メンバーがしっかりと活動ができるように計画・フォローすることで、まさに全員拡大を推進していく必要があったと考えます。

10 月例会では、新入会員候補者に対して入会への動機を形成することを目的として実施をしました。我々青年会議所について知っていただく、青年会議所の有用性を学んでいただく、その有用性をご自身に当てはめていただくという 3 部構成にて展開しました。委員会の基本方針としては、本年度我々の事業に参加していただき、我々の活動をおおよそ理解していただいております、関係構築をそれなりにできている、いわゆる協働者の方々を 10 月例会に招き、実際に入会に結びつけるというのが目的となっておりました。しかし、8 月例会では知人などに協力していただいた部分が多く、協働者を巻き込むことができていなかったため、想定した参加者を募ることができませんでした。参加者に関して、8 月例会に協働者として参加してくださった方、協賛してくださった方が一部いらっしゃいましたが、その他の方々はそもそも入会角度の低い方が多かったと思います。そして参加していただいた大多数の方々は本例会を開催するにあたり、メンバーが声掛けをした参加者でした。我々の活動に賛同し理解のある方々を 10 月例会の前の時点でもっと多く募ることができていればこのような結果ではなかったのではないかと思います。

本年度の当委員会の立ち位置を考えれば、部分的にはしっかりとできたこともある一年だったと思います。しかし、一年間の活動を全体でみると一貫性に欠け、筋の通っていない活動でもあったように思います。目

の前のことや事業計画段階で一部の目的達成にフォーカスしすぎてしまっていることにより、一年間で達成しないといけない基本方針に記載した内容がおざなりになっていました。つまり、各例会の計画段階で、例会で達成しなければいけないことはもちろん、本年度の狙いとなる部分に関してもスケジュールとリソースを意識して活動する必要がありました。

本年度の新入会員は2名であったことから、1度開催された新入会員予定者のオリエンテーションについては予定通り行うことができました。また、新入会員が置き去りにならないよう、毎月の委員会を含め、まめに情報共有を行いました。しかし例会にもなかなか参加していただくことができず、最終的に新入会員に拡大に携わっていただくことはほとんどありませんでした。拡大ミーティングを毎月しっかりと実施することができれば、新入会員の拡大への意識づけをすることはできたかもしれませんが、結局のところ、リソースを割くことができず、毎月の拡大ミーティングも想定通りの実施はできませんでした。1年を通して目先のことにリソースをすべて割いてしまっていたことが本年度の大きな反省点であります。当委員会は歴浅メンバーが中心となっていた為、予定者段階で過年度の引継ぎ事項を中心に過去議案からしっかりと研究を行い、先輩メンバーにもヒアリング等をする必要がありました。そのうえでスケジュール感をしっかりと見据えタスク管理を行ってやるべきことに取り組んでいけたのなら基本方針の内容をもっと達成することができたのではないかと思います。

最後に、私は改めて2025年度は「新たな絆が生み出す煌めく海部津島創造委員会」にて活動させて頂きましたが、この委員会名には、新たな仲間を入会へ導き（新たな絆）、共に活動をする（生み出す）ことで、次代の海部津島を担う人財を育むための（煌めく海部津島創造）運動展開をしていく、ということがこの委員会名に込められた意味だと考えます。残念ながら新たな絆を多く生み出すことはできませんでしたが、海部津島青年会議所の底力にて次代を担う人財を育むことはできたかと思えます。この底力は歴々の先輩方が積み上げてきた風土や伝統、そしてメンバー個々の力の双方が織りなすことにより発揮されていると私は感じます。それは偏に素晴らしいことではありますが、やはり組織として活動するという意識を研ぎ澄ませることが必要不可欠であると思えます。それは青年会議所の役職制度や、理事会の運営方式などの青年会議所の各仕組みにおいて、組織として力を発揮することを前提とした仕組みであるということをもまずは再度認識していくことが必要です。そして組織として力を発揮していく、その道筋こそが新たな絆を生み出すことへの最短ルートであると考えます。

5. 委員長所見

この一年を振り返ってみますと、楽しいことや喜びを感じたこともありましたが、苦しさや迷いを感じる場面が多々ありました。私がJC活動をスタートしたのは2024年8月からであり、同年10月に委員長を担当する運びとなりました。JCというものがよくわからない中で基本方針を書き、必死に事業計画議案を書いて実施した2月例会では全く自己評価が与えられるような例会にすることができませんでした。しかし、JC活動の有用性に気づくことができました。物事の基礎となる背景目的をしっかりとさせたいという考えを事業を構築していくというのは一見当たり前のようですが、簡単なことではなく、結果的には自己成長としてとても有効的に自身にフィードバックできたことだと感じました。その学びを元に考えますと、予定者の時点では、わからないなりにどのような事業をするのかを想像しながら基本方針を構築したことから、手法ありきの内容になっていたと思います。今基本方針を作成するのであれば、理事長所信から活動の背景目的をしっかりと導き出すことで、確かな委員会活動の拠り所となる基本方針が作成できるのではないかと思います。

また、当委員会は拡大が主軸ではあるが、青少年向けのメイン事業も実施する建付けとなっておりました。正副メンバーはじめ、各先輩メンバーがスケジュール感やボリューム感に関しては当初から多く意見をいた

だいておりました。しかし私には全体像を理解することには至れず、この一年間の活動は終始準備不足を感じさせることの多い一年間となりました。その準備不足が活動主軸のブレを生じさせ、目的を果たすことのできないずれた活動を実施することに繋がりました。今後も委員長を担当するメンバーがいくつかの例会を経験してきていたとしても委員会活動の全体像をつかんでいとは限りません。ですので、委員長としての活動の全体像の理解には必要十分に時間を使い対応していく必要があると感じます。そうでなければいくら毎年申し送りをしたところで、諸先輩方が培ってきた知見などを取り入れる段階に到達できない、または到達するのが遅くなってしまい、結局のところ取り入れることができずに時間が過ぎていってしまうことは容易に想像できます。

そして年間を通して、全員拡大スキームを用いた拡大活動にて成果を出すことまでは至りませんでした。目先のこなさなければならない実施項目に追われ、日々の地道な拡大活動を継続的に実施することができず、スキームに関しての是非を判断する成果達成にすら至ることができませんでした。スキーム構築することだけでなく、地道な実施プロセスを遂行していくための日頃からの意識作り、雰囲気作り、目標やスケジュールのフォローアップなどを委員会にてしっかりと管理、実施していく必要があったと考えます。また、8月例会では子供たちの自己肯定感を向上させることができましたが、それは出店運営に参加していただいた子供たちのみにとどまりました。煌めく海部津島を創造していくには一過性の効果でなく、長期的な目線は必要不可欠であり、その視点や思考を持ち合わせたうえで事業構築、事業の実施をしていくことが必要であると考えます。

しかし、悪いことばかりではなく、8月例会では1,500人以上の一般来場者数を記録し、大変賑わい、活気のある事業を実施することができました。多くの参加者からお礼の声をいただき、子どもたちの変化も実際に目の当たりにすることができました。そして事業を無事に遂行できたというこれらの喜びは委員長という立場でしか味わうことができない、貴重な醍醐味を存分に感じました。さらには、少ないメンバーでこの事業を大きな問題もなく終了できたことは当 LOM の底力と可能性を感じました。朝早くから遅い時間帯まで準備活動から設営まで対応していただいたことに深く感謝を申し上げます。8月例会が終わってみて、青年会議所だからこその、青年会議所だからこそやっていかなければならないことについては考えることができるようになりました。

今年一年は担当副理事長、そして副委員長をはじめとする委員会メンバー、多くの LOM メンバーにご助言・ご協力をいただきました。皆様のおかげで、青年経済人として私自身大きく成長し、たくさんのことをこの一年間で学ばせていただきました。皆様への御礼と今年度の経験を活かし、今後も LOM のため、海部津島地域のために邁進することを約束して、私の委員長所見とさせていただきます。

6. 収 支 決 算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
合 計	0	合 計	0	合 計	0	合 計	0